

II 令和4年度「読書の魅力を伝える活動推進研修会」

1 南薩会場

- (1) 日 時
令和4年8月24日(水) 13:00~15:30
- (2) 会 場
南さつま市民会館
- (3) 参加者
76人
- (4) 研修内容
 - ア 県の読書活動推進概要説明
 - イ 講演
講師 鹿児島大学法文教育学域教育学系教育学部 准教授 原田 義則氏
演題 「対話でひらく本の力」
 - ウ 実践事例発表
事例発表 よみきかせ隊(南さつま市)
実 演 県立図書館ボランティアグループ「さざなみ」
 - エ 質疑応答及び意見交換

【研修会の様子】



対話と読書の重要性にふれた
原田氏の講演



事例発表
よみきかせ隊



実演
さざなみ



実演
演習の様子



事例発表後の意見交換

(5) 総括

今年度より、3か年の計画で「読書の魅力を伝える活動推進事業」を実施するにあたり、初年度の研修会を南薩地区と始良・伊佐地区で開催した。各地区を会場とした研修会は、令和2年度、3年度の2年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となったため、3年ぶりの開催となった。感染症拡大の不安もあったが、開催市の南さつま市を中心とした県図協南薩支部の協力を得て、一部縮小して開催することができた。

講演では鹿児島大学の原田先生に、本の力をさらに高める対話の在り方を御教授いただき、演習としてリテラチャー・サークルに取り組んだ。

実践事例発表では、地域で活動している読書グループの発表、県で活動している読書グループの実演を視聴してもらい、それぞれの活動内容についての質疑応答を行った後、原田先生に指導助言をいただいた。

普段、研修会に参加することが難しいという方や初めて参加したという方も多くいらっしや、支部開催の意義を感じた。参加者の感想からは、研修会名でもある「読書の魅力」について考えながら参加して下さったことがうかがえ、全体的に和やかな雰囲気にも包まれた研修会となった。

2 始良・伊佐会場

- (1) 日 時
令和4年9月7日(水) 13:00~16:30
- (2) 会 場
大口ふれあいセンター
- (3) 参加者
83人
- (4) 研修内容
- ア 県の読書活動推進概要説明
- イ 講演
講師 鹿児島国際大学 副学長 千々岩 弘一氏
演題 「量の読書」から「質の読書」へ
ーデジタル社会における読書の意義と方法を求めてー
- ウ 実践事例発表
事例発表 大口明光学園(伊佐市)
おはなしグループ 紙ふうせん(霧島市)
- エ 質疑応答及び意見交換
- オ ワークショップ
- | | | |
|-----------------|----------------------|----------|
| (ア) 子ども向け読み聞かせ | (かもう親子読書会*Hana Hana* | 藤谷 和泉さん) |
| (イ) 読み聞かせ・あそびうた | (湧水町子ども発達センター「みのり」 | 浜田 友紀さん) |
| (ウ) 朗読のたのしみ | (大口図書館ボランティア「ぎんなん」 | 外西 利子さん) |
| (エ) 大人向け読書会 | (きりしま読書会 | 池田 幹子さん) |

【研修会の様子】



「読み浸る体験」とは
千々岩氏の講演



実践事例発表
大口明光学園



実践事例発表
紙ふうせん



子ども向け読み聞かせ



読み聞かせ・あそびうた



朗読のたのしみ



大人の読書会

(5) 総括

南薩会場に続き、開催市の伊佐市を中心とした県図協始良伊佐支部の協力を得て、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、大口ふれあいセンターにて開催することができた。

講演では鹿児島国際大学の千々岩副学長に、現代社会における読書のデジタル化における問題点と「質の読書」の価値について御教授いただいた。実践事例発表では、大口明光学園の英語での読み聞かせの取組の発表、紙ふうせんの実演発表の後、意見交換を行った。ワークショップは、それぞれのグループに分かれ、60分間の充実したワークショップを実施することができた。

制約のある中での開催ではあったが、改めて「読書の魅力」について再確認したと同時に、新たな発見、学びある研修会となった。